がんばる Chubu
観光地域づくり編

日本人の心のふるさと“熊野”を守り活用していくために

昇龍道のモデルコース周辺で展開される「観光地域づくり」を紹介する特集。今回のエリアは三重県の熊野古道伊勢路。世界遺産登録までの道のり、そしてエコツアーによる持続可能な観光地域づくりを定着させる取り組みを紹介する。

埋もれた道を掘り起こせ！官民の協力で成し遂げた世界遺産登録

2つの聖地を結ぶ「熊野古道伊勢路」

2004年7月7日、「紀伊山地の霊場と参詣道（さんけいみち）」が日本で12番目の世界遺産として登録された。三重、和歌山、奈良の3県にまたがるこの広大な世界遺産は、神道、仏教などが融合して形成された3つの霊場（熊野三山、高野山、吉野・大峯（おおみね））とそれらを結ぶ参詣道（熊野参詣道<通称：熊野古道>、高野参詣道、大峯奥駆道（おくがけみち））で構成され、紀伊山地の山、川、海という大自然、そしてそこに暮らす人たちの生活とも多様に結びつき、大変貴重な「文化的景観」を形成している。

熊野古道には5つの路があり、その中で三重県を通るのが「伊勢路」。伊勢神宮と熊野三山、2つの聖地を結ぶ参詣道だ。江戸時代、「伊勢へ七度、熊野へ三度、芝の愛宕へ月まいり」と詠まれるほど、多くの旅人がこの信仰の道を歩いた。また、同じく江戸時代には西国三十三所の巡礼が庶民の間に広まり、その一番目の札所が熊野那智大社に隣接する青岸渡寺（せいがんとじ）だったことで、大いに賑わいをみせた。

熊野古道の伊勢路は近代以降も地域の生活道路として利用されていたが、鉄道の開通や道路整備に伴いその役割がなくなり、シダや雑木、土に埋もれ、次第に忘れられた道となりつつあった。

紀伊山地の霊場と参詣道のルート

消滅の危機を乗り越え世界遺産に登録される

熊野古道がこのまま消滅してしまったら――。危機感をもった地域の先覚者たちにより、40年程前から道の調査や掘り起こし、古道歩きが始められた。これらの保全活動に対して、行政も次第に支援を行うようになった。1994年、三重県は地域活性化のために東紀州各市町村とともに「東紀州地域活性化事業推進協議会（現・東紀州地域振興公社）」を設立。情報発信やイベント開催、熊野古道語り部（ガイド）養成講座や地域づくりを担う人材育成といった取り組みを展開していった。

中でも1999年に開催された「東紀州体験フェスタ」では、古道歩きが行われ人気を集めた。これを機に熊野古道の知名度は飛躍的にあがり、地域ボランティアによる保存会が多くの峠で結成されるなど保全活動はますます進み、後に世界遺産に登録される大部分が修復・整備された。

現在の熊野古道サポーターズ倶楽部による保全活動の様子 ★

こうして一時は消滅が危ぶまれていた熊野古道は、官民の協力によって再生を遂げ世界遺産に登録された。

世界遺産登録後も価値を保ち続けるために

世界遺産に登録される少し前、三重県は熊野古道の関係者や熊野古道に関心を寄せる人たちを集め、意見交換をする場を設けた。今後世界遺産に登録されることにより、観光地化が進みすぎて熊野古道の文化的景観が崩壊してはならない。この価値を守り将来につないでいくことが大きな課題だと捉えていたからだ。皆で出し合った意見をもとに、将来に向けて価値を守り伝えていくとともに地域におけるかけがえのない資産として地域振興に活用していこうと、活動指針「アクションプログラム」が策定された。

しかし、世界遺産に登録され多くの旅行者が押し寄せるようになる中、熊野古道に深く関わる一人の女性が、様々な課題を現場で目の当たりにし、「このままでは将来、熊野古道はどうなるのだろう」「皆で決めた活動指針が10年後には崩壊するのではないか」と危機感を抱き行動を起こした。後に着地型＊エコツアー専門店「くまの体験企画」を開業する内山裕紀子さん（49）だ。

＊着地型：観光客の受け入れ先が地元ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、現地解散する新しい観光の形態。

地域の課題解決を目的に住民を巻き込んだエコツアーが始動

旅行者のために、地域のためになる仕事を

話は少し遡る。2002年、内山さんは体調を崩して名古屋から故郷の尾鷲に戻り、体力づくりのために熊野古道の馬越（まごせ）峠を歩き始めた。当時は案内標識が少なく、すれ違う人に道を尋ねられることばかり。旅行者からの質問をもとに内山さんは手書きのガイドマップをつくり、困っている人に渡しては案内をした。

その頃東紀州地域では、まちづくり会の結成、イベント実行委員の立ち上げ、語り部の募集など、熊野古道の世界遺産登録に向けた準備が一気に始まっていた。内山さんは熊野古道語り部になり、旅行者からの想いを地元に伝えたい一心で、25もの事業に関わり毎日会議に参加していた。

世界遺産登録後は、「三重県立熊野古道センター」の準備事務所で働き、センター完成後は、隣接する

三重県立熊野古道センターは、熊野古道や周辺地域の情報提供、地域の人々との交流、地域振興を図るために建てられた施設

「夢古道おわせ」で体験学習の担当として100を超えるプログラムを企画・実施するという生活を送っていた。

しかし、熊野古道に深く関わる中で、内山さんはなかなか解決されない地域の課題に悩んでいた。世界遺産に登録されバスツアー客が押し寄せるようになったが、ほとんどが山道だけを歩いて帰る日帰り旅行、弁当は地域外からバスに積まれてくる、立ち寄るのは

国道沿いの道の駅やドライブインだけ。旅行者が年間どれだけ来ても住民と関わりを持つことはなく、地元への経済効果もほとんどない状態だった。

「私たちの住む地域は大手旅行会社やバス会社を儲けさせるための“部品”なのか」「アクションプログラムで熊野古道を“活用”することを決めたのに、これでは“利用”されているだけじゃないか」と内山さんは思った。また、熊野古道の関係者は、熊野古道を後世まで残すために若者にもっと関わってほしいと願っているが、このままでは住民の関心が薄くなっていき、役場の担当者と一部の観光関係者、趣味人や退職者など余裕のある人しか関わらなくなってしまう。

そこで、内山さんは住民が主体となった地域づくりでこれらの課題を解決しようと決意。2008年に「くまの体験企画」を開業し、地元をよく知る人にしかつくれないツアーを企画・販売するとともに、住民が仕事として熊野古道に関わり収入が得られるプロのガイド業を定着させる試みを開始した。

熊野を深く体感し、出会いと心に残る旅を

内山さん（中央）は、江戸時代の巡礼者の気持ちをなぞらえるガイドを得意としている ☆

くまの体験企画の魅力ある事業を2つ紹介する。1つ目は「個人向けのエコツアー」。単に自然の中を歩くだけでなく、経験豊富なガイドがドキュメンタリー番組のプロデューサーさながらの視点で様々な見方を提案し、旅行者の好奇心と探求心を満たしてくれる。さらに、町なかにも足を運び、小さな店にも立ち寄り、郷土料理を食べるなど、地域を巻き込んだ内容にすることで滞在時間が延び、宿泊につながり、地元の素敵な人たちとの出会いも提供している。

郷土料理の詰まったお弁当に舌鼓を打つツアー参加者 ☆

2つ目は「紀伊半島みる観る探検隊」。熊野の地域資源の発掘と保全を目的に、くまの体験企画が主催し、地元住民が案内するイベント型エコツアーだ。昭和初期に廃村となった地区を村の子孫の案内で訪れたり、ネイチャーガイドとともに吉野熊野国立公園・特別保護地区の森を歩いたり、これまで52回、特別企画も入れると63回開催している。多数のメディアにも取り上げられ100名以上が応募するツアーもあるほど反響が高い。また、地元のウォーキング大会の常設コースになったり、Iターンしてきた人が廃村の保全活動に従事したり、様々な波及効果をもたらしている。

紀伊半島みる観る探検隊の開催を通じて、町おこしや保全活動をする地元住民のやり甲斐にもつながっている ☆

保全・観光・振興で行政区域を越えて貢献していく

世界遺産に登録されてから13年。石畳を見る、神社に行くという「点」の観光から、熊野古道を一本の道としてつなぎ「線」として歩く旅行者も増えてきた。そして、くまの体験企画では周辺エリアを含めて「面」として捉え、活動の幅をさらに広げている。「行政区域を越えて予算も関係なく活動できるのは民間だからできること。三重県も和歌山県も全部つないで、この地域全体が良くなっていくようなツーリズムを推進していきたい」と内山さんは今後のビジョンを語る。

内山さんは昨年、総務省が実施する「平成28年度ふるさとづくり大賞」において個人表彰（総務大臣賞）を受賞した。この賞は、こころを寄せる地域「ふるさと」をより良くしようと頑張る団体、個人に贈られるものだ。

過疎化や高齢化が進み、今後の熊野古道の保全が危惧されるこの地域において、くまの体験企画による保全・観光・振興というバランスの取れた観光地域づくりにより、一人でも多くの若者が熊野古道に関心を抱き、文化的景観が後世まで保たれることを願ってやまない。

文：企画部　櫻井 景子
取材協力：くまの体験企画、
　　三重県 社会教育・文化財保護課
写真提供：☆印：くまの体験企画
　　★印：三重県　回印：熊野市

がんばる Chubu 観光地域づくり編

くまの体験企画の人気コースを歩いてみませんか

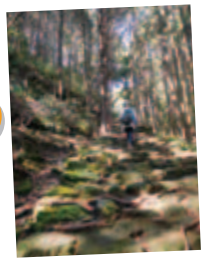
熊野古道を歩いてみたいけど、山歩きに自信はないし、ハードルが高いと尻込みしていませんか?
今回紹介するコース「松本峠から花の窟へ ～海沿いの熊野街道を行く～」は、標高が高くなく山歩き初心者の方でも安心です。伊勢からいくつもの峠を越え、熊野古道伊勢路の最後の峠が松本峠。美しい石畳が残り、峠の東屋からは七里御浜の絶景が楽しめます。付近には世界遺産の鬼ヶ城、獅子岩、花の窟神社など見所も満載です。

スタート

1 鬼ヶ城

波の浸食と急激な地盤の隆起によってつくられた奇岩が約1.2㎞続きます。自然がつくりあげた迫力ある彫刻美は壮観です。

2 松本峠



ほとんどの道に美しい石畳が残り、竹林に囲まれた峠では等身大ほどのお地蔵様が出迎えてくれます。峠から徒歩10分の東屋からは七里御浜の絶景が楽しめます。

3 紀南ツアーデザインセンター

明治時代に木本（現・熊野市）を代表する林業家・初代奥川吉三郎の私邸を利用した休憩所。熊野ならではの自然・文化に触れる展示や講座の開催も行っています。

休憩

4 七里御浜

熊野市から紀宝町に至る約22㎞続く日本で一番長い砂礫海岸。アカウミガメの上陸地としても知られています。

5 獅子岩

熊野灘に向かって吠える巨大な獅子の姿をした高さ25mの奇岩。熊野市山中の大馬神社の狛犬にもなぞらえられています。

ゴール

6 花の窟（いわや）神社

神々の母であるイザナミノミコトの御陵であり、日本最古と言われる神社。約170mの大綱が御神体からかけられています。隣接する道の駅熊野・花の窟（お綱茶屋）では、地域特産品の古代米を使用したお綱もちやうどん、郷土料理のめはり寿司なども楽しめます。

お綱もち▶

◀めはり寿司

◎歩行距離　約5㎞
◎所要時間　約4時間30分（歩行時間は約3時間）
◎料金　お一人様5,500円（3名様以上）、6,500円（2名様）
※1名で参加の場合は10,000円となります。
※ガイド料、企画料、保険代、消費税を含みます。

【お問合せ先】くまの体験企画　内山 裕紀子　〒519-3612 三重県尾鷲市林町9-28
TEL：090-7865-0771　FAX：050-3153-1665　ホームページ http://kumanokodo.info/
他にも熊野を深く体感できる様々なコースがあります。詳細はくまの体験企画のホームページをご覧ください。